

シニアII部 優勝

岡山東風支部 難波 正敏



令和五年度

鷺照吟詠会競吟大会報告

鷺照吟詠会事務局 河田 博行

五月十四日に前期競吟大会、九月二十四日には後期競吟大会がそれぞれ岡山県生涯学習センターを会場に開催され、日頃の練習成果が競われました。

今年度は会員の高齢化に対応すべく、前期競吟大会の従来の「華頂の部」に加え、後期競吟大会に「傘寿の部I」と「傘寿の部II」が新設されましたが、今回はこの部門への出吟者が予想外に少なく、次回からは積極的なチャレンジをお願いします。

なお、会場の音響機器等の設備上の問題でご不便をおかけした事をお詫び申し上げます。(各大会の成績結果は別掲参照)

このところ競吟大会には、私の好きな李白の『峨眉山月』で出吟するのですが、何箇所か発声しにくい箇所があります。中でも一箇所難しくて、特にマイクの前に立って、その句に来るとミスしてしまいトラウマになってしまいました。努力不足か、工夫が足りないのか、老化のせいかな、まだまだ勉強しなければならぬと思います。

さて、新しい年は李白と並び称される杜甫の詩に挑戦してみることにはしようか?しかし、杜甫の絶句は数が少なく、やっぱり李白にしようかなと楽しんでいきます。

吟詠研修会では、総本部会長

古田哲壮先生、指導部長藤本曙

冽先生、秀詠グループ今井彩黎

先生の熱心なご指導、範吟をい

ただきありがとうございます。



【栄えある優勝者 喜びの声】

華頂の部 優勝

岡山東風支部 難波 正敏



令和五年五月、三年振りにOB会が開催され出席しましたら、私が最高齢者でした。

歳を重ねるに連れて(八十七歳)体力が衰え、特に吟に必要な声帯、腹筋の衰えを痛感します。以前、塩路澄誠先生からご指導いただいた上達法の中で一つでも出来ることを続けて行きたいと思っています。

何と云っても「健康が一番」。高齢者は病気の早期発見、早期治療が大切です。コロナ禍と暑さ寒さで家ごもり、運動不足を解消する良い方法はありませんか?

とりあえず目先の目標は米寿(八十八歳)まで、次は卒寿(九〇歳)まで元気で吟することです。健康のために吟詠、吟詠のために健康で精進したいと思えます。

講師の先生方を始め鷺照吟詠会の皆様、ご指導ご交流をお願い致します

壮年III部 優勝

岡山総楽支部 安田 雅次



今回『黄鶴楼にて孟浩然を送る』を選び吟じましたが、思いもよらず優勝することができました。この詩は雄大な情景の中に親しい友達を見送る別れの寂しさがあります。どのようにしたら表現できるか大変苦労しました。普段大島教室では詩の興味をよく理解する勉強をしており、意解のみならず、鑑賞し、自分なりの落としどころに努めています。

しかし、国や時代の違いもあり、やすやすと理解する事は難しいことですが、片山先生の指導もあり、少しずつではありませんが、詩中に入っていくことができているのではないかと思っております。なかなか「詩吟」を楽しむまでは至っておりませんが、少しでも楽しめよう、今後とも精進していきたいと思っております。また、吟友の

指摘により、自分の足りない部分を認識させてもらい、研究した結果、今回の結果になり、吟友には感謝しております。

上級の部 優勝

岡山梢雲支部 虫明 隆二



この度は鷺照吟詠会前期競吟大会・上級の部優勝という栄誉を授かりこの上ない喜びです。長いコロナ禍の中、練習も思うほど出来ず、声も張りがなく力で押すような吟になっていました。ただ、今回は格上の諸先輩もエントリーされていることから、優勝ということは意識せず、発声と声質にこだわって響く声を出せるように注意しながら練習してきました。どうしても上位にというプレッシャーもなく普段どおりのものが出せるかどうかということが大きかったように思います。

今年度は準師範への昇格試験を控えていることから、今までほとんど練習してこなかった律詩を練習することで、長時間の声出しにも耐性ができてきたように感じています。絶句一吟のみの頃より流石に苦しい練習ですが、強く出すところと優しくても良いところとのメリハリも、律詩を吟じていると何となく理解が進んできました。そのあたりから一段階レベルアップに繋がるようにこれからも練習していこうと思っております。

詩吟旭教室で習う皆さんと一緒に、楽しく上達できるように私が出来たことを、皆さんの上達に役立てることが出来たらと思います。この度はありがとうございました

連吟の部 優勝

岡山中山支部 中尾 恵

岡山江陽支部 川根 幾恵



『大楠公』、お互いに課題としている詩、興味のある詩ということで選びました。一緒に練習する機会がある時までは独吟で

練習、一緒に練習するときにも二〜三回しか練習できません。私はかつて、一度この吟を連吟で挑戦したことがあります。以来「課題吟」として、自分なりに練習してきました。しかし、初めて取り組む吟を連吟の相手なしで練習するのは大変だったと思います。このように少ない練習機会の中で先生方や、周囲の人からアドバイスをいただき、本番を迎えました。望外の結果に驚いています。先生方、周囲の方々に感謝です。

練習、一緒に練習するときにも二〜三回しか練習できません。私はかつて、一度この吟を連吟で挑戦したことがあります。以来「課題吟」として、自分なりに練習してきました。しかし、初めて取り組む吟を連吟の相手なしで練習するのは大変だったと思います。このように少ない練習機会の中で先生方や、周囲の人からアドバイスをいただき、本番を迎えました。望外の結果に驚いています。先生方、周囲の方々に感謝です。

合吟の部 優勝

岡山中山支部 河原 圭子



令和五年度鷺照吟詠会後期競吟大会で、中山支部（京山・芳田・一宮公民館の三教室）は合吟に出吟することになりました。メンバーは九名の女性チームです。始めの頃は、三教室のメンバーがどのように合わせて吟するかと思いましたが、大取先生のご指導の下、三教室に関わりのある田中好子さんの吟調に合わせて、各教室で練習をしました。九名が揃って合吟したのは、当日の発声度です。メンバーは吟

力のある錚々たる方達です。『花朝下澱江』の美しい柔らかい詩情が表現できたのでしよう、優勝の栄誉を頂きました。

振り返ってみますと、令和四年の合吟の優勝は岡山大学吟詩部です。令和二・三年は中止、令和元年、平成三十年、二十八年と長年優勝が続いています。今年も岡山大学吟詩部の合吟は一条乱れぬ素晴らしい合吟だったと思います。少しだけ中山支部の合吟に、吟の技と味があり、評価されたのかなと思います。合吟は独吟にない喜びがあります。今後も励んでいきたいと思っています。大会を運営なさいました役員の皆様方に感謝申し上げます。

和歌の部 優勝

岡山中山支部 佐藤 昌子



令和五年九月二十四日、鷺照吟詠会後期競吟大会・和歌の部にて『銀も』で優勝させていただきました。熱心にご指導くださった先生方に厚く御礼申し上げます。

この和歌を選んだ時は、さほどの思いはなかったのですが、後にこの『銀も』は、私にとって特別な吟になったのでした。

あれが私、全国新人中間層競吟大会に出吟した令和三年十一月の事でした。思いもかけない出来事が起こったのは、その日から遡った三箇月前のある夜の娘からの電話でした。

いつも元気な声の娘とは違い、じつと黙ったまま。心配して何度も声をかけると、やっと重い口を開いて出た言葉は、彼女の夫が余命三箇月の宣告を医師から受けたと言う、とても受け入れられない言葉でした。義理の息子はまだ四十六歳。関東在住なので、度々は会えませんが、春に家族で遊びに来た時は、いつもと変わらず元気でした。病氣と言うものは、こんなにも突然で残酷なものなのでしょうか……。

なすすべもなく時は過ぎていき、大会が近づいてきました。私は欠席しようと思っていました。が、そのことを知った息子は、出てほしいとの事でしたので、出吟を決めました。もし良い吟ができたら、神様が息子の病気を治してくれるかもしれない、奇跡を祈り。しかし、成績は芳しくはありませんでした。入賞はいただけなかったものの、神様に声が届くような吟ではあ

りませんでした。失敗ばかりの情けない吟しかができませんでした。

次の日息子は旅立ちました。その時から『銀も』は私にとって特別な吟になりました。

未熟な私には『銀も』を思うようには吟じることができませんでした。少しでも良い吟になるようにがんばりました。初めて大取先生から「その声の出し方を忘れないように」とOKが出た時は嬉しかったです。

まだまだ課題満載ですが、息子に喜んでもらえるような吟を目指して、なお一層精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

最上級の部 優勝

岡山有朋支部 木谷 秀史



この度は、後期競吟大会最上級の部において名誉ある賞をいただきありがとうございます。毎年、この部門に出吟をして互いに吟を競い合うことで詩吟を楽しんだり、吟力の向上について考えたりするよい機会と

なっています。今後も、詩吟を披露するにあたり、審査基準を基にした得点化可能な観点である①音の安定度、②吟の流れ、③言葉の明瞭さなどを一層練磨していきたいと思っています。このことに加え、得点化が難しい観点を伸ばすことにも挑戦していきたいと思っています。それは、①自己の吟に粘り強く向き合う力(忍耐力)、②自己の吟を振り返り、課題を克服しようとする力(意欲・向上) ③模範吟や詩の意味からの学びを、自己の吟に生かすこと(吟や詩との対話)です。

今後は、吟の成長、人としての成長を目指して、研鑽を積んでいきたいと思っています。

支部・教室便り

誕生したばかりの教室。もう少してやっと一歳です!

岡山中山支部

玉野田井教室 池上 茂

玉野田井教室は、去年六月に誕生したばかり。赤ちゃんに例えると、ようやくハイハイを始めたところかな(?)という感じです。

会員数も自分を入れてやっと六名の小規模教室。岡山県で一番南の玉野市で、田井市民センターという施設の小さな会議室

を借りて練習しています。練習日時は、原則として毎週水曜日の夕方六時から八時です。

今まで練習してきた詩は、新Aその一(初級編)の半分を少し超えた程度でしょうか。受講生全員が初めて詩吟に触れた方ばかりでしたが、皆さん勘が良くて、詩吟独特の節調や文語調の言葉づかいにかなり馴染んで下さっているように感じます。

今後は一人ひとりの吟と、丁寧に向き合っていきたいと思っています。

では、教室のメンバーを、年齢順に簡単に、インシヤルで紹介いたします。

まずMさん御夫妻。大変に仲の良いご夫婦で、物静かでないご高齡ではありますが、同じ建物内の卓球練習で一汗かいてから詩吟教室に来て下さる、元氣一杯のお二人です。

次にFさん。仕事で日々市内各地を走り回り、以前から続けている水泳やお花などにもお忙しい中、この詩吟教室にご参加下さっているパワフルな女性です。Mさんの奥様とともに教室のムードメーカーになってくださっていて、随分と助けられています。

次はOさん。実は筆者と中学時代から(大学も含め)の同級生で、職場も数十年に及ぶ同僚

だったよしみで、詩吟教室に参加してもらいました。物静かですが人柄も良く、頼りになる男性です。

しんがりにはYさん。この方もかつて筆者と職場の同僚でした。その上、長年にわたる飲み友達でもあります。そのよしみで、酒場で詩吟教室への参加を頼んだ次第です。教室最年少ゆえの遠慮からか、これまで教室内ではあまり発言をされていませんが、温かいハートを秘めた男性です。

以上、ごく簡単に私達の教室を紹介させて頂きました。教室みんなで詩吟を楽しめるよう努めて行きたいと思っていますので、どうか温かく見守って下さるよう、お願ひ致します。



自由投稿

新人の部で奨励賞をいただいた

岡山岡南支部 立木 南



岡山県天神山文化プラザでの岡山県連合会競吟大会において、新人の部で奨励賞をいただきましたがとうございました。

私が「詩吟」を聞くようになったきっかけは、主人が主治医から、声を出す事は健康に良いと勧められ、鷺照吟詠会に入会し、自宅で練習をしているのを聞いていたことからです。

その頃は、「詩吟」は、独特の節回し、旋律、不思議な曲だと思っ程度でした。それから主人が亡くなり、坂本先生より入会を勧められました。漢詩の意味は難しく、あまり乗り気ではありませんでしたが、健康維持にと思い、令和四年四月一日に入会させていただきました。

いざ自分で吟じてみると、大きな声も出ず、音符、吟法を覚えなくてはならず、そして、詩の意味、作者の思いを理解し、

強弱をつけ、詩を吟じなければならぬため、あまりにも奥深く、私には無理かと思うことしきりでしたが、坂本先生の熱心なご指導、そして諸先輩のご指導を受けながら、令和五年八月に開催された、岡山県連合会競吟大会・新人の部に出場させていただきました。

これからも、坂本先生のご指導、諸先輩の吟を聞きながら精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。 感謝

関西大学吟詠部創立九〇周年記念吟詠発表会に参加して

岡山中山支部 河田 博行

昨秋十一月四日、母校関西大学にて開催された「吟詠部創立九〇周年・再発足七〇周年記念吟詠発表会」に参加した小生は、四名の現役部員の元氣な吟を聴き剣舞を見ながら、この三年間の出来事を回想していました。

令和二年のOB会総会で、現役員増強策が検討され、塩路晴彦君が企画・制作したAR (Augmented Reality) パンフレットによる部員勧誘の支援策が承認された矢先、新型コロナウイルスの発令。大学構内への立ち入りが禁止され、最後に残っていた四回生二名も、新入部員勧誘どころか部活動も出来ないまま卒業。

顧問教授を通じての大学との折衝で、廃部という最悪の危機は免れたものの、令和三年より休部という状況に陥りました。我々OBとしては、このままでは早晚廃部になるのでは？と気持ちの休まる時はありませんでした。

学生からの問合せがあった場合に備えて、学生課にARパンフレットを置いてもらい、師範の連絡先を伝えておいて一年余り過ぎた令和四年の六月、「詩吟に興味を持って居る学生がいる」との連絡が大学から入り、試験や夏期休暇等が終わった十月に谷澤OB会会長と師範二名が大学を訪れ、学生課を交えて二人の女子学生と面談。二人共詩吟に対する関心が強く、早速週一回の練習が始まり、翌年一月には「学生達の意欲とOBの皆さんの強い熱意とバックアップ体制を確認出来たので、春の新入部員勧誘活動に間に合うように」として、大学側から「復部」の許可が下りたのでした。

思い起こせば昨年四月、OB会総会の席に一人の男子学生が来ていました。その時点では女子部員三名だったので、今日日の練習中に部室に顔を出した方からメシを喰わせてやるからついて来い！と言われて何もわ

からないまま連れて来られた(学生の弁) そうです。

総会後の懇親会の席で、小生が「何故部室に顔を出したのか？」と彼(進藤君)に尋ねると、「高校生の頃から我流で木刀を振り回しており、剣舞や居合に興味があったので」との事。そこで三代上の剣舞師範M先輩の席に連れて行き、二人で入部の説得に努めた(彼に言わせるた?)のでした。

そして、彼を加えた四名の現役員のお陰で、あきらめかけていた記念大会を開催する事が出来た。そう思うと熱いものが込み上げて来ました。伝統ある吟詠部の灯を、決して消してはならない、参加した歴代OB全員がさらにその思いを強くした大会でした。

総本部古田会長のご来駕や、明治大学OB・岡山大学吟詠部・明治大学詩吟研究会等の皆様の賛助をいただき、ささやかながら九〇周年の節目に相応しい意義ある大会となりました事を報告し、皆様方のご支援に改めて感謝申し上げます。

した事をご報告致します。(敬称を省き学生時代に戻つての君) づけでの表現をお許し願います(成績詳細は別掲記事に)

